

せんだいメディアテーク年報 (2020年度)

はじめに

開館20周年を迎えた2020年度のメディアテークは、新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、貸館事業や自主事業等、さまざまな制約の中で取り組んだ一年となりました。年度内2度にわたった合計約2か月間の臨時休館措置のほか、開館期間にあっても、ウイルス感染拡大防止の観点から、貸館事業においては利用人数の制限や各種感染予防対策を実施し、また、多くの自主事業については中止あるいは延期等の対応を取らざるを得ませんでした。

東日本大震災からの10年間、メディアテークとともに地域の中で活動してきた表現者たちが、過去・現在・未来を見据えて、それぞれの観点であらわした10のナラティブ（物語）が集う開館20周年展「ナラティブの修復」は翌年度に延期しました。また、20周年記念フォーラムとして計画した、これまでメディアテークに関わった有識者、アーティストや市民の参加によるせんだいメディアテーク円卓会議も中止となりましたが、メディアテークのこれまでの取り組みを俯瞰し、今後の展開を構想するてがかりのひとつとして、建設期から現在までのさまざまな出来事を、写真、映像、資料などでたどり、クロノロジー（年表）として展示しました。

一方、5年目を迎えた「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」のひとつとして仙台市沿岸部で取り組んでいる「川俣正/仙台インプログレス」では、川俣氏のリモートによる指示を受けながら次年度の「見晴らしタワー（仮）」の制作につながる新たな木道を制作しました。また、仙台市域にある書店やギャラリーなどの文化拠点を運営するひとつひとつの協働によりアーティストや文化分野の専門家を招き、地域の活性化、クリエイター同士のコミュニティの形成、文化芸術との接点を深めることを目的として開催してきた「TALK」は、映像配信することを前提としたイベントとして企画・実施したところです。

震災アーカイブ事業の「3がつ11にちをわすれないためにセンター」では、これまでに寄せられた記録の一層の利活用を図るため、『3がつ11にちをわすれないためにセンター 資料カタログ』を発行するとともに、「仙台防災未来フォーラム2021」に参加。ブースを出展し、動画の配信を行いました。

さらに、展覧会や講演会、「民話 声の図書室」などメディアテーク主催の事業記録等をオンラインで視聴していただくため、「せんだいメディアテーク・オンライン」としてYouTubeでの配信にも取り組んだところです。

コロナ禍にあって、今日の社会が抱えてきたさまざまな矛盾や課題が顕在化しているとともに、言葉や身体性の問題など日常の中で改めて問い直されていることも少なくありません。このような状況の中から、次の10年に向けてメディアテークとしてたどるべき道筋を見だし、市民のみなさんと確かな取り組みを積み重ねていくことがとても大切になってくると考えています。

目次

1. 施設の概要

- 1-1. 施設
- 1-2. 沿革
- 1-3. 組織
- 1-4. 収支
- 1-5. 施設使用実績

2. 企画事業

- 2-1. 「ナラティブの修復」事業
- 2-2. 発信・活用推進事業
- 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
- 2-4. その他事業（芸術文化振興事業ほか）

3. 受託事業

- 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

4. 情報サービス事業

- 4-1. 映像音響ライブラリー
- 4-2. 教材ライブラリー
- 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）
- 4-4. 地域映像ライブラリー
- 4-5. デジタルアーカイブ事業
- 4-6. 活動支援事業

5. 配布・刊行物等

- 5-1. 書籍や報告書等の印刷物
- 5-2. DVDメディア等の映像音響資料
- 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等
- 5-4. その他常備している印刷物

6. 新型コロナウイルス感染症の影響

- 6-1. 臨時休館
- 6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

1. 施設の概要

1. 施設の概要 > 1-1. 施設、1-2. 沿革

1-1. 施設

- 所在地 仙台市青葉区春日町2番1号
 開館時間 9:00－22:00（階により異なる）
 敷地面積 3,949㎡
 構造 鉄筋造一部鉄筋コンクリート造地下2階地上7階建
 延床面積 21,682㎡
 主な施設内容
 地下2階 書庫、収蔵庫、機械室
 地下1階 駐車場、書庫
 1階プラザ（定禅寺通に開かれた屋内型公開空地、オープンスクエア、カフェ、ショップ）
 2階ライブラリー（映像音響資料、児童書、雑誌等の閲覧）
 3・4階ライブラリー（仙台市民図書館）
 5階ギャラリー 3300（固定壁面を中心とする天井高3,300mmの展示空間）
 6階ギャラリー 4200（可動壁面で自由に構成できる天井高4,200mmの展示空間）
 7階スタジオ（施設貸出・相談窓口、スタジオシアター、各種スタジオ）

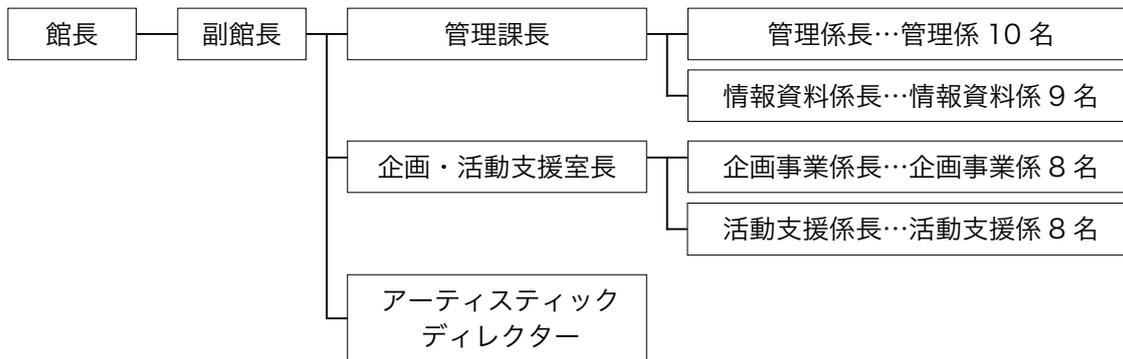
1-2. 沿革

- 平成 元年（1989年） 宮城県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の要望書提出。
 平成 4年（1992年） 定禅寺通に図書館を併設した市民ギャラリーを建設する方針が定まる。
 平成 6年（1994年） 市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための
 情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設とすることが決まる。
 平成 7年（1995年） 設計競技により、伊東豊雄建築設計事務所が選ばれる。
 平成 9年（1997年） 12月着工。
 平成12年（2000年） 8月竣工。
 平成13年（2001年） 1月26日開館。仙台ひと・まち交流財団が管理（図書館は仙台市直営）。
 グッドデザイン大賞受賞。
 平成16年（2004年） 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定。
 平成19年（2007年） 業務移管により、仙台市市民文化事業団を指定管理者に指定。
 平成20年（2008年） 館内フロアレイアウトを一部変更。
 平成23年（2011年） 地域創造大賞受賞。東日本大震災により休館。
 5月3日から一部再開し、翌年1月27日に全館再開。
 平成25年（2013年） 館長に鷲田清一（哲学者）が就任。

1-3. 組織

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

指定管理者 公益財団法人仙台市市民文化事業団（図書館は仙台市直営）



（他、嘱託職員含め45名 令和2年〔2020年〕10月時点）

1-4. 収支

(1) 収入の部

指定管理料	592,257千円
事業収入（企画事業、受託事業を含む）	55,001千円
《内訳》	
・補助金	36,261千円
・各種助成金	0千円
・入場料等	33千円
・受託事業収入	15,891千円
・仙台市市民文化事業団自主財源	1,816千円
・負担金収入	1,000千円

(2) 支出の部

管理運営費（施設の維持管理、情報サービス事業を含む）	592,257千円
事業費（企画事業、受託事業を含む）	55,001千円

1-5. 施設使用実績

(1) 施設使用実績

施設	貸出単位	利用日(週)数 ／開館日(週)数	日(週)数ベース 利用率	利用者数
5階ギャラリー	週	23 / 37	62.2%	24,839
6階ギャラリー	週	18 / 37	48.6%	25,896
オープンスクエア	日	83 / 252	32.9%	14,766
スタジオシアター	1日3区分	74 / 261	28.4%	3,035
2階会議室	1日3区分	183 / 294	62.2%	1,508
7階会議室	1日3区分	264 / 297	88.9%	3,580
プラザ控室a	1日3区分	63 / 292	21.6%	327
プラザ控室b	1日3区分	71 / 292	24.3%	495
託児室	1日3区分	5 / 291	1.7%	15

使用料等徴収額 30,912千円

*5/6階ギャラリーは週数ベース

(2) 視察等の対応

視察 38件 530人

報道（新聞・テレビ・書籍・雑誌） 77件

(3) その他

博物館実習の受け入れ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため受け入れなし

2. 企画事業

メディアを活用した生涯学習活動および文化活動にかかる、展示・上映・ワークショップ等。

2-1. 「ナラティブの修復」事業

記憶の継承と新たな創造の接続について多様なメディアを活用した探求をおこなう事業。アーティストと協働し今日的な社会の課題や哲学的な問いを同時代性として提示する《展覧会》と、多用な市民グループが地域文化の記録や創出をはかる「メディアスタディーズ」を実施しました。後者は、対話と思索の場づくりや活動発表機会の提供《スタジオ情報発信》、民話等の資料をデジタル情報として記録する活動《地域文化アーカイブ》などで構成されます。

A 《展覧会》

2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 > A 《展覧会》、B 《スタジオ情報発信》

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延期しました。

B 《スタジオ情報発信》

(1) 考えるテーブル てつがくカフェ

会期：2021年2月28日、3月21日
(全2回)

会場：オンライン

入場・参加者数：18名(11名、7名)

入場料等：無料

共催等：てつがくカフェ@せんだい(共催)

2011年度から継続し、10年目を迎えた事業。例年どおりの集う形でのイベントが困難であったため、オンラインで実験的に開催。「今、コロナ禍についての対話を試みる」「〈メモリアル〉を考える」をテーマに、参加者同士で対話を深めました。

(2) 展示 2011・3・11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた いいつたえ むかしばなし はなし その8 多賀城市周辺の民話

会期：2020年11月6日-12月27日

会場：7fラウンジ

入場・参加者数：4,253名

入場料等：無料

共催等：「民話 声の図書室」プロジェクトチーム(共催)

民話の語り手をたずね、その土地に伝承された民話を聞き歩く活動を約45年にわたり続けてきた「みやぎ民話の会」が、宮城県多賀城市で、1980年代に聞いた民話10話を紹介しました。



2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 > B《スタジオ情報発信》、C《地域文化アーカイブ》

(3) 震災10年特別上映企画～10年後のまなざし～

会期：2021年2月27日
 会場：7fスタジオシアター
 入場・参加者数：59名
 入場料等：無料
 共催等：みやぎシネマクラドル（共催）

震災10年の特別企画として、みやぎシネマクラドルの会員が制作した震災をテーマにした作品を上映しました。その後、オンラインでの参加者との対話を通して、10年という時間を考える機会をつくりました。



C《地域文化アーカイブ》

(1) 民話 声の図書室

2012年度から引き続き、民話 声の図書室プロジェクトチームとの協働により、みやぎ民話の会が45年にわたり記録した、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声を資料化しました。また、あらたな記録活動を進め、資料を展示したほか、DVD2本、CD12枚を制作しました。



(2) どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—

2012年度から引き続き、NPO法人20世紀アーカイブ仙台と協働し、詳細が不明な仙台の古い写真を公開し、場所や年代についての情報を集めるプロジェクト。例年どおりに写真を展示し来場者から話を聞き取ることが困難だったので、ウェブサイト上で情報を集めました。



2-2. 発信・活用推進事業

各種団体との連携を通じて地域における役割を担うとともに、仙台市民図書館をふくめた当館の総合的な情報アクセス機能の活性化を図る事業。

A 《バリアフリー・デザイン》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 >
A 《バリアフリー・デザイン》、B 《館長発信事業》

(1) バリアフリー上映『飯舘村に帰る』

会期：2020年11月29日
会場：7fスタジオシアター
入場・参加者数：144名（2回上映）
入場料等：無料
共催等：—

誰もが気軽に映画を楽しめるよう、目や耳の不自由な方への音声解説・日本語字幕と託児サービスをつけた上映会を実施しました。音声解説と日本語字幕はボランティアにより制作されました。

[上映作品]

『飯舘村に帰る』

(制作：島津信子、福原悠介／2019年)



(2) 手ではなすおはなしの会

会期：2020年12月26日
会場：7f会議室
入場・参加者数：18名
入場料等：無料
共催等：仙台市民図書館

ボランティアグループ「まほうの手」による手話のおはなし会を実施しました。



B 《館長発信事業》

(1) 「公共建築はみんなの家である」展 ～伊東豊雄の4つの公共建築～

会期：2020年8月20日～10月21日
会場：7fラウンジ
入場・参加者数：6,950名
入場料等：無料
共催等：伊東豊雄建築設計事務所（共催）

伊東豊雄建築設計事務所が手掛けた4つの公共建築、「せんだいメディアテーク」、「まつもと市民芸術館」、「座・高円寺」、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を紹介し、今日の公共建築について考える展示を開催しました。



C 《地域文化連携》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > C 《地域文化連携》

(1) ショートピース！仙台短篇映画祭2020

会期：2021年2月14日、20日 - 21日
 会場：7fスタジオシアター
 入場・参加者数：200名
 入場料等：1プログラム券1,000円、高校生以下、豊齢・障害者手帳等で800円
 共催等：仙台短篇映画祭実行委員会（共催）

仙台で上映される機会が少ない短篇映画を中心とした映画祭。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月の開催予定を延期し、例年より規模を縮小して開催しました。在仙のゲストを迎えたほか、オンラインでのゲストトークも実施しました。また、20周年を記念し、これまでに関わりのあった映画人49名による寄稿を掲載した本「ショートピース！仙台短篇映画祭20」を制作しました。

[上映プログラム]

- ・すずしい木陰でのんびり
- ・MOOSIC LAB 新作レビュー
- ・齊藤工×コンプライアンス
- ・震災を考える①
- ・震災を考える②

[ゲスト]

守屋文雄、柳英里紗、山西竜矢、前原滉、齊藤工、狐火、小森はるか、青野文昭、大浦美蘭



(2) せんだいデザインリーグ2021卒業設計日本一決定戦

会期：2021年3月7日-14日
 会場：1fオープンスクエア、6fギャラリー4200
 入場・参加者数：1,700名
 入場料等：無料
 共催等：仙台建築都市学生会議（共催）

19回目を迎える、建築を学ぶ学生たちの卒業設計が一堂に会し、日本一を決めるイベント。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、応募データによる一次審査を実施し、公開審査する作品を100点に絞り、展示しました。

[審査員] 乾久美子（審査員長）、岡野道子、小田原のどか、藤原徹平、吉村靖孝

[入賞作] 日本一：森永あみ（芝浦工業大学）『私の人生（家）-心理モデルとしての住宅と、遡及的改修によるセルフセラピー-』、日本二：成定由香沙（明治大学）『香港逆移植-映画的手法による香港集团的記憶の保存-』、日本三：宮西夏里武（信州大学）『繕いを、編む-千曲川水害後1年目の街の修復風景の集積による失われた児童館の再建-』



2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > C 《地域文化連携》、D 《施設活用推進》

(3) 定禅寺通りイベント共催事業等

ストリートに開かれた場として、定禅寺通を中心に開催されているイベントの実行委員会と連携・協力する事業。

a) 定禅寺リビングストリート プチマルシェ 2020

会期：2020年9月19日（土）－9月22日（火）

「定禅寺リビングストリート プチマルシェ限定 ソトリビングスタンプラリー 2020」に協力し、オリジナルグッズを提供しました。

D 《施設活用推進》

(1) とぶらす・ウィーク

会期：2020年8月7日－8月10日

会場：1f オープンスクエア

入場・参加者数：660名

入場料等：無料

共催等：仙台市民図書館（共催）

仙台七夕にまつわる図書、新聞記事とSDGsの本を展示しました。また、仙台市が制作した映画「仙台七夕まつり」（1963年）を上映したほか、小学生を対象とした夏休み工作教室も開催しました。



2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」

「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐ事業。

A 《地域展開事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」> A《地域展開事業》

(1) 川俣正／仙台インプログレス

会期：通年
会場：仙台市沿岸部
入場・参加者数：40名
入場料等：—
共催等：新浜町内会（協力）、貞山運河倶楽部（協力）

[イベント]

・「みんなの木道」制作
（2020年12月14日－19日／会場：
貞山運河ほか／参加者数：40名）

川俣正氏による仙台市沿岸部の課題に長期的に向き合うプロジェクト。「みんなの橋」制作にむけた取り組みとして、川俣氏のリモートによる指示で新たな木道を制作しました。以前制作した「みんなの船」に乗って運河を渡り、木道などを歩く地元町内会主催のイベント「貞山運河の渡し舟と新浜フットパス2020」に協力しました。



(2) 藤浩志／ワケあり雑がみ部

会期：通年
会場：7fスタジオb、オンライン
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：仙台市環境局（協力）

[イベント]

・ワケあり雑がみ部
（2020年9月11日、12日、10月9日、
10日、11月13日、14日
（全6回）／会場：7fスタジオb／参加
者数：110名）

2017年から始まったごみの資源化プロジェクト。7月からオンライン企画「おうちで雑がみ部」を実施するとともに、9月から12月にかけて、人数を絞って部活をし、雑がみを使って自由に作品を制作しました。また、周辺商店街での七夕や、各種団体のイベントなどに協力しました。

「おうちで雑がみ部」企画制作：
濱田直樹（株式会社KUNK）



(3) 東北リサーチとアートセンター（TRAC）

2017年度から引き続き、仙台や東北の歴史・資源・課題などを調べ、アートや表現につなげる活動と交流のための拠点を運営しました。また、2019年度に実施した「レコメン堂」のアーカイブサイト（<https://tachiagari.org>）を作成したほか、運営を担う3団体からなるパートナー「やわらかな土から」による展覧会や関連イベントを実施しました。（「やわらかな土から」構成団体：一般社団法人NOOK、3.11オモイデアーカイブ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン）



佐竹真紀子《Seaside Seeds》部分
2017

B 《コミュニケーション事業》

2. 企画事業 > 2-3. せんだい・アート・ノード・プロジェクト >
B 《コミュニケーション事業》

(1) TALK（トーク）

協働者の企画によるアーティストや専門家によるトークイベント。コロナ禍の今年度は、収録して、配信しました。

協働者：千田優太（一般社団法人アーツグラウンド東北）、前野久美子（book cafe 火星の庭）、菅原匠子（曲線）、工藤夏海（アーティスト、人形劇団ポンコレラ、喫茶ホルン）、佐立るり子（アトリエサタチ）、関本欣哉（Gallery TURNAROUND）、FabLab SENDAI – FLAT、大河原準介（演劇企画集団LondonPANDA）、Hangout Lab Sendai

[実施内容]

a) 宮城県文化関係者アンケートの結果から見えるもの

会期：2020年8月23日
会場：boxes Inc.
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：千田優太

新型コロナウイルスが宮城県の文化芸術にどのような影響を与えたのか、その実態を把握するために、2020年6月に有志によって実施されたアンケートについて振り返りました。同様の調査がされている福岡や福井の調査結果と比較しながら、これまでの状況把握と、今後の展望について話し合いました。

[ゲスト等]

千葉里佳（からだメディア研究室）、宮本一輝（仙台シアターラボ）



b) Independent Bookstore Print Editions 作家が作品を売ることについて、またその試み。

会期：2020年9月15日
会場：book cafe 火星の庭
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：前野久美子

写真家の志賀理江子氏が仙台の書店と立ち上げたプロジェクト、「Independent Bookstore Print Editions」のこれまでの活動を振り返りながら、書店と共同し作品を販売することの意義やプロジェクトの今後の展望について語り合いました。

[ゲスト等]

志賀理江子（写真家）、菊竹寛（Yutaka Kikutake Gallery）、高熊洋平（書本&cafe magellan）、菅原匠子（曲線）、前野久美子（book cafe 火星の庭）



c) 『光と時のドキュメント』写真・映像・日常・記録

会期：2020年10月18日
会場：曲線
入場・参加者数：16名
入場料等：無料
企画運営：菅原匠子

写真家の一ノ瀬ちひろ氏と映像作家の小森はるか氏が、それぞれ体験してきた日常の変化となる出来事について言及しながら、写真と映像という異なるメディアによって、記録することや作品をつくることについて意見を交わしました。

[ゲスト等]

一ノ瀬ちひろ（写真家）、小森はるか（映像作家）



d) 人権と芸術・問いかける私～作品から生まれる波の事

会期：2020年11月14日
会場：喫茶ホルン
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：工藤夏海

制作を通して交流をもったアーティストたちが集い、「社会生活」と「芸術」を主題として、それぞれがこれまで過ごしてきた日々の体験や問題意識がどのような過程を経て「作品」となり、受け手へと繋がっていくのか意見を交わしました。

[ゲスト等]

アキラ・ザ・ハスラー（アーティスト）、碓井ゆい（アーティスト）、佐々瞬（アーティスト）、工藤夏海（アーティスト）



e) 南極を知る一人が住める環境とは—

会期：2020年12月15日
会場：SARP 仙台アーティストランプレイス
入場・参加者数：7名
入場料等：無料
企画運営：佐立るり子

元南極観測隊員の石井洋子氏をゲストに招き、「南極」をテーマに小学生たちと対話しました。小学生たちの疑問に回答する形で南極の環境や生息する生き物、観測隊の暮らしや活動について話し合いながら、私たちが生活する環境との違いについて考えました。

[ゲスト等]

石井洋子（元日本南極地域観測隊員、宮城県地球温暖化防止活動推進員）



f) 秋田-岩手-仙台、地域における表現の場の実践

会期：2020年12月17日、23日
会場：Cyg art gallery、ココラボラトリー、Gallery TURNAROUND
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：関本欣哉

東北の民間ギャラリー代表者とスタッフ、アーティストが、それぞれの活動について、2つのチャンネルに分かれて意見を交わしました。チャンネル-Aでは、各ギャラリーの代表者が集い、施設運営に携わったきっかけや表現の場を継続していくことの課題と今後の展望について話し合いました。チャンネル-Bでは、各ギャラリーのスタッフとアーティストが、より現場に近い視点で、コロナ禍での取り組みや美術業界で働くことについて共有しました。

[ゲスト等]

A

後藤仁（ココラボラトリー 二代目代表）、清水真介（Cyg art gallery ディレクター）、関本欣哉（Gallery TURNAROUND 代表）

B

菅原綾希子（造形作家／ココラボ同ビル入居）、千葉真利（Cyg art gallery キュレーター）、安部朝美（Gallery TURNAROUND 副代表）



g) 完成させる必要のないものづくり

会期：2020年12月19日
会場：FabLab SENDAI - FLAT
入場・参加者数：9名
入場料等：無料
企画運営：FabLab SENDAI - FLAT

フリーランスエンジニアの廣瀬悠一氏が、制作拠点としている市民共同の工房や、自ら考案した3次元データから中身の詰まった立体物を編む手法「ソリッド編み」について話しました。

[ゲスト等]

廣瀬悠一（フリーランスエンジニア）



h) コロナ禍における舞台芸術はどうだったのか・どうするのか

会期：2020年12月22日
会場：7fスタジオb
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：大河原準介

舞台芸術関係者がコロナウイルスの影響によって変化した演劇界の現状と課題について話し合いました。第一部は、仙台を拠点として活動している舞台俳優をゲストに招き、それぞれの演劇活動の遍歴を伺いながら、仙台の演劇界の1年間を振り返りました。第二部は、全国各地で活躍する舞台芸術関係者をオンラインで繋ぎ、コロナ禍での取り組みを共有するとともに、今後の劇場と演劇の未来について考えました。

[ゲスト等]

第一部

渡部ギユウ（俳優、YONEZAWA GYU OFFICE 代表）、本田 椋（俳優、短距離男道ミサイル代表）、大河原準介（演劇企画集団LondonPANDA 主宰）

第二部

松本大介（舞台照明家、松本デザイン室代表）、水戸雅彦（まつもと市民芸術館 芸術監督補佐）、長島 確（フェスティバル/トーキョー ディレクター）、大河原準介（演劇企画集団LondonPANDA 主宰）



i) 今、仕事場から考える。サステナブル？ダイバーシティ？パブリック？

会期：2021年1月12日
会場：sendai music place ROOTS
入場・参加者数：—
入場料等：—
企画運営：Hangout Lab Sendai

コロナ禍での働き方やソーシャルディスタンスをテーマに、仕事場を外に向けて開いてきたゲストの取り組みを通して、今後の仕事場の在り方や地域における存在意義、人とのコミュニケーションについて語り合いました。

[ゲスト等]

宇都宮俊（一級建築士）、林宏樹（sendai music place ROOTS 代表、サクソ奏者）、関本欣哉（Gallery TURNAROUND 代表、美術家）、白鳥大樹（Hangout Lab Sendai）、中里広太（Hangout Lab Sendai）



2. 企画事業 > 2-3. せんだい・アート・ノード・プロジェクト >
 B《コミュニケーション事業》、C《せんだい資源ナーレ》

(2) JOURNAL (ジャーナル)

アートノード・プロジェクトについて広く伝えるとともに、地域の資源や課題と現代アートの関係を可視化・記録していく印刷物。コロナ禍における東北各地の現代アート展覧会のレビューにより内容を構成しました。

編集：株式会社コミュニナ、デザイン：ホームシックデザイン
 ・第8号（2021年3月発行）



C 《せんだい資源ナーレ》

(1) テトラとリリック 仙台から見る海洋プラスチックのいま

会期：2021年1月29日-3月23日
 会場：1f南面
 入場・参加者数：118,360名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市環境局（共催）、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）（協力）

世界的・全国的な課題となっているプラスチックごみ対策について、2020年度に仙台市が取り組む「プラスチック資源循環の推進にかかる事業」の一環として、環境局と共催で展示を開催しました。在仙rapper HUNGER氏のリリック、楽曲と、デザイナー伊藤裕氏と渡邊武海氏による展示のほか、環境NPOの協力のもと情報をパネル展示しました。



2-4. その他事業（芸術文化振興事業ほか）

仙台市市民文化事業団芸術文化振興事業や各種機関との共催。

2. 企画事業 > 2-4. その他事業

(1) SMMA仙台・宮城ミュージアムアライアンス

仙台を中心とした博物館施設の共同事業体（2020年度17施設）の事務局を担い、ウェブサイト等を運営したほか、フリーペーパー「旬の見験楽学便」、「The Sendai Museum Experience 04」、10周年記念誌「せんだい見験図鑑」を発行しました。また、ミュージアムの学芸員たちがそれぞれの専門性に沿ったテーマで話すラジオ番組「ミュージアムトークテラス・ラジオ」（全5回）を制作しました。



(2) 活版印刷工房

会期：2020年9月6日、10月18日、11月15日、12月12日、12月13日
会場：地下1f準備室
入場・参加者数：35名
入場料等：無料
共催等：活版印刷研究会（共催）

活版印刷研究会と協働し、当館で所蔵する活版印刷の活字や道具、手フット印刷機を使った作品の制作や部品の清掃等を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、研究会メンバーのみの活動としました。



(3) せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

a) せんだいメディアテーク クロノロジー 2001-2021

会期：2021年1月8日-2月24日
(次年度まで延長)
会場：7fラウンジ
入場・参加者数：10,599名
入場料等：無料
共催等：—

メディアテークの建設期から現在までのさまざまな出来事や取り組みを、写真、映像、資料等でたどるクロノロジー（年表）として展示しました。



(4) ホスピタリティ向上事業

a) 光のひろば

会期：2020年12月20日～27日

会場：1fオープンスクエア

入場・参加者数：4,160名

入場料等：無料

共催等：－

「SENDAI光のページェント」の開催時期に合わせ、定禅寺通に面した広場であるメディアテーク1階の巨大空間を照明や映像等で演出・活用する「光のひろば」を開催しました。



(5) ミュージアムグッズ開発・販売事業

メディアテーク開館20周年を記念して、建物やロゴマークをデザインしたオリジナルグッズ（エコバック、サコッシュ、「Toyo Ito」サイン入りサインペン2種（赤・黒）、伊東豊雄デザイントートバック）を制作、販売しました。



3. 受託事業

仙台市より受託した事業。

3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

2011年度から継続して、市民、専門家らとの協働により、東日本大震災に関する写真・映像・音声、記録・発信・利活用に提供。略称「わすれん！」。

3. 受託事業 > 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

(1) 『震災記録を見る、読む、囲むー「飯舘村に帰る」バリアフリー上映の記録ー』の映像制作

バリアフリー上映『飯舘村に帰る』の音声解説と日本語字幕を制作するなかで、震災記録に映る土地固有の風景や言葉をどのように伝えるか試行錯誤を重ねたボランティア活動の記録映像を制作しました（2021年3月「星空と路」で上映）。

制作期間 2020年2月－2021年1月

(2) バリアフリー上映『飯舘村に帰る』（再掲）

会期：2020年11月29日
会場：7fスタジオシアター
入場・参加者数：144名（2回上映）
入場料等：無料

わすれん！参加者である島津信子氏と福原悠介氏が制作した映像『飯舘村に帰る』に、音声解説・日本語字幕をつけて上映しました（託児サービスあり）。

[上映作品]

『飯舘村に帰る』

（制作：島津信子、福原悠介／2019年）

(3) 『3がつ11にちをわすれないためにセンター 資料カタログ』発行

より多くの方がわすれん！の資料を利活用できるよう、センター発足後から現在に至るまでに制作したDVD、展示パネルやウェブ記事を紹介するカタログを制作しました。

2021年3月 発行



(4) 「仙台防災未来フォーラム2021」オンライン発表およびブース出展

会期：2021年3月6日－7日
会場：仙台国際センター展示棟

[オンライン発表]

トークセッション「リリックにみる震災からの10年」（出演：HUNGER）の収録・配信

[ブース出展]

参加型プロジェクト「はじまりのごはん」のパネル展示、「活動報告」・「資料カタログ」冊子の配布

3. 受託事業 > 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

(5) 星空と路

会期：2021年3月10日～4月18日
 (8月1日まで延長)
 会場：7fスタジオシアター、7fスタジオa、1fオープンスクエア
 入場・参加者数：2,356名
 入場料等：無料
 共催等：—

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」参加者の活動を紹介する展示、上映とトークを実施。参加者の活動から震災をふりかえりました。



[イベント]

- ・上映とトーク
 東日本大震災 山元町の記録 「忘れまじ この悲しみを」
 (2021年3月13日 / 7fスタジオシアター / 参加者：53名)
- ・上映とトーク
 中野伝承プロジェクト 「日和山と中野小太鼓」
 (2021年3月13日 / 7fスタジオシアター / 参加者：44名)
- ・上映
 震災記録を見る、読む、囲む
 (2021年3月14日 / 7fスタジオシアター / 参加者：27名)
- ・上映とトーク
 相馬クロニクルダイアログ 第7回 テーマ「これまでとこれから」
 (2021年3月14日 / 7fスタジオシアター / 参加者：17名)
- ・上映とトーク
 屋根裏ハイツ 「とおくはちかい (reprise)」
 (2021年3月14日 / 7fスタジオシアター / 参加者：20名)

(6) リアルふっこうボイス

会期：2021年3月20日
 会場：7fプロジェクトルーム
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災の被害にあわれた住民や支援者等、復興まちづくりに携わるさまざまな方の想いを生の声で記録・発信すると同時に、復興まちづくりに携わるメンバーが、それらの声や被災地の復興の現状をホンネで話し合う音声番組。第43回となった今回は副題を「石巻のこえ 第7」として配信しました。（配信中に地震が発生し、中断しました。）

4. 情報サービス事業

各種ライブラリーでの資料提供や情報メディア活用の支援。

4. 情報サービス事業 > 4-1. 映像音響ライブラリー、4-2. 教材ライブラリー、
4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）、4-4. 地域映像ライブラリー

4-1. 映像音響ライブラリー

資料点数 14,925点
貸出点数 49,404点
新規登録者数 490名

4-2. 教材ライブラリー

資料点数 4,896点
貸出点数 230点
機材貸出点数 103点

4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）

資料点数 5,695点
貸出点数 3,024件
対面朗読件数 146件
音訳・点訳件数 16件
音声読み上げパソコン利用件数 0件
音訳制作件数 16タイトル
(DAISY資料10タイトル、メディアテーク資料〔情報誌等〕6タイトル)
点訳制作件数 30タイトル
(視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」登録23タイトル、メディアテーク資料〔情報誌等〕7タイトル)

4-4. 地域映像ライブラリー

資料点数 16点

4-5. デジタルアーカイブ事業

《アーカイブ作成活動事業》

(1) smtコレクションの制作・公開

主催事業の記録映像、スタジオを拠点とした市民グループ等との協働による映像、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動を通じて制作された東日本大震災にまつわる映像などをDVDパッケージにし（今年度40タイトル／累計433タイトル開架 [5-2] 参照）、映像音響ライブラリーおよび教材ライブラリーで公開したほか、ライブラリー利用登録者にとどまらず、内外の報道、研究、上映会等のために貸し出しました。また、smtコレクションをオンライン公開する試みとして、Youtubeチャンネル「せんだいメディアテーク・オンライン」を始めました。

4-6. 活動支援事業

(1) 学校連携事業

「杜のひろば・広瀬」で、映像制作プログラム「コマ撮りアニメーションを作ろう！」の出張授業を実施しました（12月8日／参加者数2名）。

(2) メディアスタディーズ

プロジェクトに取り組む個人・団体の方々との協働により、7fスタジオを拠点とし、地域の歴史や文化をデジタル・アーカイブとして残していく活動や、そのための企画・編集作業など、メディアを使った創作と実践に取り組みました。

《プロジェクトと協働者》

- ・活版印刷工房（活版印刷研究会）
- ・てつがくカフェ（てつがくカフェ@せんだい）
- ・ユースてつがくカフェ てつこの部屋（てつがくカフェ@せんだい）
- ・どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ（NPO法人20世紀アーカイブ仙台）
- ・民話 声の図書室（みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム）
- ・おほはしア라운드（地域探検隊 -TTT-）
- ・プロジェクト・せんだい（プロジェクト・せんだい）
- ・知る 続く 在来作物プロジェクト（みやぎ在来作物研究会）
- ・仙台前衛藝術の足跡を辿る（仙台ダダ外部調査委員会）
- ・みやぎシネマクラドル（みやぎシネマクラドル）
- ・いきもの記録係（いきもの記録係）
- ・失われた村の風景を記憶しなおす（「失われた風景を記憶しなおす」プロジェクト）
- ・カミングアウト／クローゼット（レインボーアーカイブ東北）
- ・Sendai.log（Sendai.log）
- ・細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ（寺崎英子写真集刊行委員会）
- ・まち・ひとスケープ（まち・ひとスケープ）
- ・映画『あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）』製作プロジェクト（映画『あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）』製作プロジェクト）
- ・スローウォーク・センダイ（スローウォーク・センダイ）

5. 配布・刊行物等

当館で制作し、配布・刊行した通信、冊子や映像音響資料等。

5. 配布・刊行物等 > 5-1. 書籍や報告書等の印刷物、5-2. DVDメディア等の映像音響資料、5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等、5-4. その他常備している印刷物

5-1. 書籍や報告書等の印刷物

- 『ショートピース！仙台短篇映画祭20』
- 『3がつ11にちをわすれないためにセンター 資料カタログ』
- 『カミングアウト／クローゼット 多様な性の当事者たちによる生の声の記録』[1]
- 『アートノード・ジャーナル』（第8号）
- 『せんだいメディアテーク クロノロジー 2001-2021』[2]



[1]

5-2. DVDメディア等の映像音響資料

smt コレクションDVD 40タイトル（シリーズ累計433タイトル）

[内訳]

- ・メディアテーク事業記録（3タイトル）
- ・協働による制作物（4タイトル）
- ・3がつ11にちをわすれないためにセンター資料（14タイトル）
- ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト（19タイトル）



[2]

5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等

- 『催し案内』（印刷物／毎月／PDF版をウェブサイトで公開）
- 『けやき通り通信』（印刷物／隔月）
- 『教材ライブラリーだより』（印刷物／毎月／PDF版をウェブサイトで公開）
- 『せんだいメディアテーク・メールニュース』（メール配信／毎月／登録者2,329名）
- ウェブサイト（アクセス総数664,279件）

5-4. その他常備している印刷物

- 総合案内（日本語版／英語版／フランス語版／中国語版／韓国語版）
- 総合案内（目や耳の不自由なかたへ）
- 総合案内（車椅子アクセス）
- 貸出施設利用案内

6. 新型コロナウイルス感染症の影響

6. 新型コロナウイルス感染症の影響 > 6-1. 臨時休館、6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

6-1. 臨時休館

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、延べ59日間臨時休館しました。

2020年4月11日－2020年5月31日

2021年3月23日－2021年3月24日

2021年3月26日－2021年3月31日（2021年5月11日まで延長）

6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

下記事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため中止もしくは延期（※）となり、開催しませんでした。

2-1. 「ナラティブの修復」事業

- ・ 展覧会「ナラティブの修復」（※）
- ・ 展示 どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ

2-2. 発信・活用推進事業

- ・ 日本語字幕制作講座
- ・ 音声解説制作講座
- ・ 鷲田清一とともに考える パート2 ドートクのじかん
- ・ 仙台・青葉まつり
- ・ とっておきの音楽祭
- ・ 定禅寺ストリートジャズフェスティバル

2-4. その他事業（芸術文化振興事業ほか）

- ・ せんだいメディアテーク円卓会議（20周年記念フォーラム part2）
- ・ シネバトル わたしのイチ押し映画（シネ）はコレよ！
- ・ シネバトル トークサロン

3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

- ・ 録音小屋
- ・ コミュニティ・アーカイブ・フォーラム（「草アーカイブ会議3」）

4-5. デジタルアーカイブ事業

- ・ 映像の仙台史